

ふるさとの 植物を守ろう

No. 18 December 2015

植物園と市民で進める
植物多様性保全ニュース

Japan Association of Botanical Gardens

公益社団法人 日本植物園協会

日本植物園協会将来計画検討委員会について ～協会の上手な利用と連携強化～

日本植物園協会将来計画検討委員 西川 綾子

各植物園は、高い志をもって研究や普及啓発事業を推進する一方で、近年では短期間で運営組織が変更するなど植物園の存続自体が難しい状況でもあります。個々の園を守るため、ひいては日本の植物園全体のさらなる活性化を目的に、将来計画検討委員会が組織されました。

◆ 将来計画検討委員会について

平成 25 年に内閣府認定の公益社団法人に組織が移行したことを契機に、従来の組織や事業を見直しました。

まず協会の目的と事業を推進し、公益社団法人として存続するために何をすべきか、何が欠けているのかを洗い出し、改善すべきものについてはすぐに改善して着手するという、スピード感を持って必要な改革を進めることが必要です。

そのためにはしっかりした経営基盤、運営基盤の構築が求められており、このことを組織として強く認識し、会員各位の協力、外部の係わりある機関や団体の理解と支援をいただきながら事業展開を積極的に図っていかねばなりません。この基盤作りに必要な方策や活動を企画し、さっそく委員会として「即、実践」していくことにしました。

◆ 事業報告

第 49 回大会・総会（平成 26 年 6 月開催）で、委員会設立の報告を行い、「会員のみなさん 気がついていましたか？ 日本植物園協会の魅力」の資料を配布し、まずは会員の意識改革からスタートしました。

12 月には日比谷図書館文化館を会場に、記念講演と事例紹介を行う「第 11 回植物園シンポジウム 江戸時代の園芸植物を未来につなぐ」を開催しました。最後に協会の事業説明を行う時間を設け、終了後は希望者を募って意見交換会を行い、協会に対する理解者を一人でも多く増やす努力をしました。

参加者のアンケートでは、植物園シンポジウムの継

続を希望する意見が多数あり、この結果は次のシンポジウムの開催へ繋がりました。なお、(公財)東京都公園協会の共催と東京江戸博物館の協賛は、翌年度の会員増につながりました。

平成 27 年度は、委員会として来るべき東京オリンピックに江戸の園芸文化を発信する目標を立てたので、まず 8 月に日比谷公園にある「緑と水の市民カレッジ」を会場に、(公財)東京都公園協会と共催、東京朝顔研究会の協力で、江戸時代のアサガオをテーマに植物園セミナーを開催し、暑い中でも遠方からの参加もあるなど、好評のうちに終了しました。

11 月は名古屋市で第 12 回植物園シンポジウム「尾張の殿様が愛した庭園と園芸植物」を開催し、立ち見が出るほど多くの参加者がある中、協会の目的や活動状況をアピールしました。

◆ 植物園の今後について

日本植物園協会は全国組織であり、学・公・民・業が一体になった協会には各分野に専門家がいます。さらに名誉会員の積極的活用も可能です。すなわち、1 つの植物園では実現不可能な事業であっても、協会組織を上手に活かし会員同士の連携強化を図ることで、これまで実現できなかった事業の実施が可能となり、個々の植物園のレベルアップと協会の活性化にもつながります。「協会の上手な利用と連携強化」は、今後の組織拡充を展開する上で重要なテーマだと考えています。

また、シンポジウムの開催は、事例紹介が個々の植物園のレベルアップのためにも重要なものであるとともに、協会が市民に開かれた組織であることをアピールする絶好のチャンスでもあります。シンポジウム開催の意義はまさにそこにあります。

今後もシンポジウム委員会や関係団体と共同で事業を推進し、会員を増やす地道な努力を行って協会の基盤を強化してまいりますので、ご一緒に組織と各園のレベルアップを図ってまいりましょう。

近畿植物同好会の紹介

近畿植物同好会は1929年4月に(初代会長は堀勝氏)発足し、第1回植物採集会が行われました。終戦前後の6年間休会した以外はずっと活動を続けており、現在創立86年目になります。現在の会長は山住一郎氏(第4代)で、会員は約200名、毎月の例会(観察会・室内例会)と年1回の総会、会誌・会報の発行を行っています。創立以来観察会は640回を超え、会誌は38号、会報は121号を発行しています。会員は身近な植物の名前を知りたい、植物のことを詳しく勉強したいという方、園芸植物、薬用植物、帰化植物やボタニカルアートに興味のある方など多彩です。戦後は北村四郎先生、田川基二先生、村田源先生などの指導を受けてきました。大阪府内の植物調査の成果は1938年田代善太郎・堀勝著『大阪府植物誌』、1963年堀勝著『大阪府植物誌』(新版)にまとめられました。創立60周年記念として1990年第2代会長桑島正二氏の時に『大阪府植物目録』を近畿植物同好会から発行しました。

開発、環境の変化、シカの食害などの影響の中、大阪府内の植物の現状を纏めておく必要性を感じ、創立

摂南大学薬学部附属薬用植物園 邑田 裕子

80周年(2009)を機に金剛山域の植物調査を開始し、毎月の例会とは別に継続的に精力的な活動を続けております。

2006年、日本植物園協会は「植物多様性保全拠点園ネットワーク」の構築にあわせ市民との協働ということが活動の一つとなりました。摂南大学薬学部附属薬用植物園と近畿植物同好会のメンバーで協働し、主に近畿地方の絶滅危惧植物の生息域外保全、種子収集などを行っています。



644回 奈良県高取町高取城跡にての観察会。

高山・絶滅危惧植物室リニューアルオープンについて

富山県中央植物園 中田 政司

富山県中央植物園の高山植物室(冷室)は、普通では「見られない」高山や北方の植物を栽培展示する目的で平成8年にオープンしました。それから約20年が経過し、最近では別の意味で「見られない」植物が注目されるようになりました。それが絶滅危惧植物です。エビネ、サギソウ、キキョウなど、人による開発や盗掘、自然災害、植生遷移などが原因で絶滅したり姿を消しつつある植物は、『富山県レッドデータブック2012』では約440種類に上っています。

(公社)日本植物園協会では、環境省の策定した第4次生物多様性国家戦略に呼应し、2020年までに日本全体の絶滅危惧植物のうち75%、1268種類を生息域外保全するという目標に取り組んでいます。富山県中央植物園は生物多様性保全拠点園の一つとして、平成18年から富山県内の絶滅危惧植物および日本のキク属や琉球列島・トカラ列島産植物の保全を対象と

して生息域外保全を行ってきました。

一方、富山県でも平成25年度に『富山県生物多様性保全推進プラン』を策定し、県民が取り組むべき行動指針が示されています。その中で富山県中央植物園には、絶滅危惧植物の調査と保全、および生物多様性についての教育普及の役割が期待されており、具体的な事例として富山県固有植物エッチュウミセバヤの保全が紹介されています。

このような背景から、設備の老朽化した高山植物室を改修し、生物多様性についての普及と絶滅危惧植物の生息域外保全の展示を行う区画を新たに設け、平成27年4月24日に「高山・絶滅危惧植物室」と名称を変更して一般公開いたしました。

高山植物の展示はもっぱら園芸化された外国産高山植物が中心ですが、中にはタテヤマキンバイのように同一種をドイツの植物園から種子交換で導入し、栽培

各園のコレクション紹介

新宿御苑における菊花壇展と古典菊の系統保存

新宿御苑管理事務所 中澤 幸大

新宿御苑では、毎年11月1日から15日までの間、菊花壇展を実施しています。これは、宮内省時代に行われていた観菊会（明治11年～昭和11年）の展示手法を引き継ぐもので、日本庭園を回遊しながら周囲の景観と調和して楽しめるよう配置に工夫が凝らされています。新宿御苑の菊花壇は、一つの様式として完成された宮内省時代の展示方式を守り、全国でもまれで多種多様な菊が一同に見られ、日本の菊文化を後世に伝えていく上で、重要な役割を果たしています。上家を設ける7つの花壇と2つの露地花壇からなり、菊花壇展の開催期間中は、例年6万人前後の来園者があります。

菊は江戸時代に盛んに栽培され、改良が重ねられて多様な品種が作り出されました。新宿御苑では、各地方で発達して作られてきた江戸菊・伊勢菊・嵯峨菊・肥後菊・丁子菊などの「古典菊」とよばれる品種を多

数保有し、現在、新宿御苑で独自に作出した品種を約300種栽培・保存しています。さらに、毎年人工交配により採種し実生栽培・選抜を行い、2～3年試作を行い新たな優秀品種を作出して各系統の更新を図っています。新品種が菊花壇展に展示できるまでには播種してから最低4年はかかりますが、新宿御苑では、宮内省時代から受け継ぐ菊の系統を守り続けています。

菊は毎年春に挿し芽をして、株の更新・各花壇に合わせた仕立てを行って行っています。しかし、作出から年数が経過した品種は茎の伸長が悪くなる等の劣化が起こります。新宿御苑では宮内省時代から受け継がれた菊展示を守っているため、花壇で使用できる品種を常に維持していかなくてはなりません。そのため、毎年行う人工交配、実生栽培・選抜が菊花壇展を維持していく上でも非常に重要な作業になっています。



伊勢菊・丁子菊・嵯峨菊花壇（写真左から嵯峨菊・丁子菊・伊勢菊）。



このニュースレターが、植物とその保全に関する情報交換の場の一つとなるよう、工夫していきたいと思えます。各地の諸団体の取り組みもご紹介していきますので、共有したい情報やご意見等を、右記の協会事務局宛にお寄せください。よろしくお祈いします。



編集・発行 公益社団法人 日本植物園協会

〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201

TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453

URL: <http://syokubutsuen-kyokai.jp/>

E-mail: seed@syokubutsuen-kyokai.jp